

— 受賞者の声 —

昨年度4回発刊しました機関誌「No-Dig Today」技術報告30編のうち、編集委員会にて選出された優秀賞受賞者および、昨年11月19日(火)に新宿角筈ホールで開催した第30回非開削技術研究発表会優秀発表者の表彰状の授与を行いました。

編集室

機関誌「No-Dig Today」技術報告表彰

【最優秀賞】



No-Dig Today 109号掲載
マレーシアにおけるエースモール工法の
岩盤施工事例
中川原 浩二 (アイレック技建(株))

この度は、2019年度非開削推進技術表彰を賜り、身に余る光栄と深く感謝申し上げます。

受賞にあたり、ともに現場で完工に向けて尽力してくださった協力会社の皆様、そして推薦をいただきました関係者の皆様に心から感謝とお礼を申し上げます。

今回の論文は、マレーシアにおけるエースモール工法の岩盤施工事例として紹介させていただきました。

海外での施工ということもあり、現地との事前協議を重ねて施工に臨みましたが、想定外のトラブルが続発し、「このままでは完工できないのではないか」と不安になり、心が折れそうになりました。

しかし、現地に同行してくださった協力会社の方々や、国内から後方支援して下さった方々のおかげもあり、何とか無事に完工しマレーシアの地に足跡を残すことができました。

今後も、国内外を問わず地域のインフラ整備に微力ながら貢献していきたいと考えております。

最後になりましたが、貴協会のますますのご発展を心より祈念申し上げ、受賞お礼の言葉とさせていただきます。誠にありがとうございました。

【優秀賞】



No-Dig Today 110号掲載
φ 2200mm泥濃式推進工法としての国内
最長且つ超近接施工実施報告について
松本 譲司 (株協和エクシオ)

この度は、優秀賞としてご選定いただいたことに驚くと同時に、とても榮譽のあることと嬉しく思います。今回、船橋市における施工事例として、φ 2,200mmの泥濃式推進工事としては日本最長となる953mという長距離である事に加えて、鉄道トンネルとの超近接施工を伴うという、非常に神経を使う工事だったこともあり、その施工について書かせていただきました。

この工事では、現場に従事いただいた方々をはじめ、多くの方々に支えられただけではなく、発注者である船橋市様の方々のご協力やご指導の下で、発注者と施工会社が一丸となって取り組んだ結果、無事に到達できたものであり、今回の受賞は、その取り組みについても高くご評価いただけたものと受け止めております。改めて関係者の方々には深く感謝申し上げます。

この受賞を機に、あらためて今後の非開削技術業界の更なる発展の一助となれるよう、より一層努力して参りたいと思っておりますので、今後とも変わらぬご指導とご鞭撻をお願い申し上げます。最後になりますが、貴協会の益々のご発展を祈念いたしまして、受賞のお礼の言葉とさせていただきます。誠に有難うございました。

第30回 非開削技術研究発表会表彰

【最優秀賞】



UAVを活用したインフラ点検の有効性
検討および事例報告

稲垣 裕亮 (株)NJS

この度は、2019年度非開削技術表彰最優秀賞を賜り、身に余る光栄と深く感謝申し上げます。この受賞にあたり、これまでご指導いただきました諸先輩方や、ご協力いただきました関係者の皆様、これまでお世話になりました方々に深く御礼申し上げます。

今回受賞した論文は、弊社が2017年より開発している閉鎖性空間でも飛行可能なUAVを①下水管きょと②水力発電所の水圧鉄管にて適用しそれぞれの有効性について報告したものです。特に、水力発電所の水圧鉄管や余水管は、その設置環境から内面点検を実施する場合、多くの時間と費用が必要でした。UAVによる内面点検では、仮設も不要となり、短時間で内面全体の状況を映像化することが可能であり、非常に効率的で有効な手法であることがわかりました。より品質の良い画像取得などまだまだ改良点は多数ありますが、他施設での適用の参考になれば幸いです。

最後になりますが、貴協会のますますの発展を心から祈念して、お礼の言葉とさせていただきます。

【優秀賞】



地中砂埋めトラフに収容された電力ケーブルの非開削撤去工法の開発

戸矢 貴幸 (東京電力パワーグリッド(株))

この度は、第30回非開削技術研究発表会の優秀賞を賜り、身に余る光栄であります。研究の実施にあたりまして、ご指導いただきました諸先輩方や共同で研究に取り組んだ協力会社の皆様に心から感謝申し上げます。

今回受賞をいただいた内容は、コンクリートトラ

フ内に収容された地中送電用OFケーブル（Oil-filled cable:電気の絶縁に油と紙を使用したケーブル）を非開削で撤去する工法を紹介したものです。

本工法の開発にあたり、ケーブル内に残留する絶縁油の土壌流出の防止ならびにケーブルに付着する川砂の摩擦抵抗の低減を検討課題として、実証試験を重ねた結果、ケーブルに損傷を与えず100mを超える長距離においても非開削撤去の現場適用が出来ることを明らかにしました。

本工法は、ケーブルを対象としておりますが、他の埋設物の撤去などへ応用できると考えられます。その際の参考になれば幸いです。

最後になりますが、貴協会の益々のご発展を心から祈念申し上げ、お礼の言葉とさせていただきます。

【優秀賞】



推進工法の新たな用途について
～ボトムパイプ推進工～

森田 智

(株)アルファシビルエンジニアリング

この度は、優秀賞を賜り、身に余る光栄と深く感謝申し上げます。

今回の受賞した論文は、ダム建設により沈んでしまう御神木について、『植木鉢の底（ボトム）の部分』を鋼管列（パイプ）で構築し、そのまま斜面を引き上げて山の中腹まで移動・移植する工事として日本で初めて実施されたものについて、その計画・施工状況・施工結果を報告させていただきました。

従来、人目につかない位置で実施され、縁の下の力持的な形で用いられる推進工法が、御神木を下支える縁の下として使用され、日の目を見られたことに深く感慨を覚えました。

推進工法の新たな用途として発表させていただいた今回の事例を機に、推進工法の多様化が進んでいくことを期待しつつ、今後の参考になれば幸いです。

最後になりますが、ご指導いただきました諸先輩方や、工事に取り組んでいただいた工事関係者の皆様に感謝申し上げるとともに、貴協会のますますの発展を心から祈念して、お礼の言葉とさせていただきます。